

公益財団法人 臨床薬理研究振興財団
2025 年度 事業計画

1. 事業計画

2025 年度は、財団設立 50 周年記念式典が開催されます。

これに伴い、出捐会社である第一三共株式会社のご配慮により、追加寄付分を含む 2.1 億円の寄付金を受領する予定です。

財団運営における財務 3 基準の遵守を考慮し、2024 年度と同様の研究奨励金等の助成事業を計画した。

1) 研究奨励金等交付金の交付 合計 1 億 1,700 万円

選考委員会で選考され、理事会で決定された交付対象者に研究奨励金等を交付する。

なお、募集に関する必要事項については選考委員会に一任することとする。

① 募集方法

募集案内を全国の研究機関に送付、また学術雑誌、関連学会、財団 Web サイトに掲示し、公募

② 応募資格

- ・研究奨励金：臨床薬理研究に従事、またはそれを志す 45 歳未満の研究者。
- ・海外留学助成金：臨床薬理研究を志す 45 歳未満で、海外での研究を希望する者。
- ・若手研究支援：40 歳未満の臨床薬理研究に従事、またはそれを志す国内の研究者で実施責任者。臨床薬理研究へのステップを前提とした基礎研究も対象とする。

③ 推薦者

- ・研究奨励金/海外留学助成金：所属機関長（学長、学部長、研究科長、病院長、研究所長等）。教授の役職名では推薦できない。
推薦件数は 1 推薦者 1 件とする。ただし、研究奨励金においては小児臨床薬理研究については 1 推薦者につき別途 1 件の推薦が可能とする。
- ・若手研究支援：教授等の組織長、推薦件数は 1 推薦者 1 件とする。

④ 募集期間：6 月～8 月

⑤ 交付件数および交付額

- | | | |
|--------------------|-------------------------|----------|
| ・研究奨励金(小児臨床薬理学枠含む) | 27 名程度 (1 名 300 万円) | 8,100 万円 |
| ・若手研究支援 | 6 名程度 (1 名 50 万円/年×2 年) | 600 万円 |
| ・海外留学助成金 | 2 名 (1 名 750 万円/年×2 年) | 3,000 万円 |

2) 2025 年度（第 36 回）財団賞の交付 合計 800 万円

財団賞選考委員会で選考され、学会および財団理事会で承認決定された交付対象者に第 46 回日本臨床薬理学会学術総会(東京、2025 年 12 月)において盾を授与すると共に研究奨励金等を交付する。

① 募集方法：学会 Web サイトおよび学会機関誌「臨床薬理」に募集案内掲載

② 募集期間：2025年4月～6月

③ 交付件数

・ 学術奨励賞（研究奨励金）	2名（各300万円）	600万円
・ 学術論文賞（副賞）	3名（各50万円）	150万円
その他の経費：選考委員会開催費用等		50万円

3) 研究報告集「臨床薬理の進歩」の発刊 作成費合計 940万円

① No. 46 発刊

編集会議（4月5日開催）等を経て2025年6月発刊し、全国約1,700か所に送付する。

掲載論文	2022年度研究奨励金交付論文	12編
	2021年度研究奨励金交付論文	1編
	2020年度研究奨励金交付論文	2編
	海外留学助成金報告	2編
	計	17編

② No. 47 発刊準備

研究論文等の入手を2025年8月より開始する。

掲載論文	2023年度研究奨励金交付論文	27編
	2022年度研究奨励金交付論文	8編
	2021年度研究奨励金交付論文	1編
	2019年度研究奨励金交付論文	1編
	海外留学助成金報告	3編
	計	40編

4) 第18回 研究報告会の開催 開催費用合計 720万円

日時：2025年11月11日(火)

場所：経団連会館

出席者：理事、監事、評議員、選考委員、全国の臨床薬理研究に関する有識者、
第18回 研究大賞受賞者、第一三共(株)研究開発部門 等

スケジュール（案）：

14:00～15:00	理事会
15:30～19:00	研究報告会
	第1部 研究大賞受賞者表彰式
	第2部 研究報告会
	第3部 情報交換会

5) 第9回 臨床薬理学集中講座の開催 開催費用合計 720万円

臨床薬理学集中講座は、2025年度もWEB開催とする。

オンデマンドによる11講義の受講、ファシリテータ2名体制での2回のWEB会、「臨床試験企画立案演習」を実施する。

開講の趣旨：

医療の中で薬物療法とそれを支える臨床薬理学の重要性がますます高まっており、臨床薬理学の将来を担う人材の育成が求められている。本講座は、若手の医師および薬剤師等が臨床薬理学を体系的・集中的に研鑽する場として、薬物療法の基本を実践し臨床試験を通じたエビデンスの創造・発信のできる医療従事者・研究者の育成を目指して開講する。

開催日時：講義ビデオ視聴（オンデマンド）	2025年7月初旬～8月下旬（予定）
第1回Web会（Zoom）	2025年7月30日（水）18：30～20：30
第2回Web会（Zoom）	2025年8月4日（月）18：30～20：30
企画立案演習（Zoom）	2025年9月7日（日）9：00～18：00

内 容：講義として「臨床薬理学とは」、「臨床試験デザイン」、「研究倫理」、「生物統計学（基礎編）」、「生物統計学（実践編）」、「薬理遺伝学」、「医薬品有害反応」、「薬物相互作用」、「バイオマーカー」、「臨床薬物動態学と薬物投与設計」、「医薬品開発・レギュラトリーサイエンス」の11講座。1講座あたりの講義時間は60分以内。アイスブレイクを目的とした2回のWEB会（患者同意説明文書の作成等）、加えて演習として「臨床試験企画立案演習」を実施する。

募集人数：40名程度（集中講座実行委員会で検討）

その他：受講修了者のネットワーク形成を支援するため、2025年12月に開催される日本臨床薬理学会学術総会（東京）の会期中に、集中講座受講者を主な対象としたフォローアップ・セミナーを開催することを計画している。
同フォローアップ・セミナー対策費用も2025年度収支予算として計上している。

6) 財団設立50周年記念事業

合計 3,200万円

財団設立50周年記念式典を7月12日（土）に開催いたします。

設立50周年記念事業について検討を重ねてきた委員会は、本年度をもってその活動を終了する予定です。記念式典は、ご出席者いただいた先生方に対し、弊財団の50年の歩みや歴史を共有できるよう、プログラムをはじめ様々な企画を検討しており、必要な予算を計上しています。また、記念誌については、『50年のあゆみ』として準備を進め、記念式典当日にお持ち帰りいただく、50周年を記念する重要な資料として発行を予定しています。

・業務委託費（記念式典）	2,060万円
・業務委託費（精算対応）	250万円
・業務委託費（記念誌）	210万円
・業務委託費（動画作成等）	250万円
・招待客旅費	430万円

公益財団法人 臨床薬理研究振興財団2025年度収支予算(損益計算方式)
2025年4月1日～2026年3月31日

(単位:円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計予算額
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	1,960,000	7,840,000	9,800,000
基本財産受取利息	1,960,000	7,840,000	9,800,000
② 受取寄付金	191,100,000	18,900,000	210,000,000
受取寄付金	191,100,000	18,900,000	210,000,000
③ 雑収益	1,500	0	1,500
受取利息	1,500	0	1,500
経常収益計	193,061,500	26,740,000	219,801,500
(2) 経常費用			
① 事業費	(214,840,000)	(0)	(214,840,000)
給料手当	7,900,000		7,900,000
業務委託費	4,500,000		4,500,000
研究奨励金	87,000,000		87,000,000
海外留学助成金	30,000,000		30,000,000
財団賞	8,000,000		8,000,000
会議費	2,100,000		2,100,000
旅費交通費	8,200,000		8,200,000
広告費	370,000		370,000
諸謝金	3,400,000		3,400,000
賃借料	7,080,000		7,080,000
印刷製本費	9,400,000		9,400,000
通信運搬費	490,000		490,000
研究報告会費	7,200,000		7,200,000
集中講座費	7,200,000		7,200,000
50周年記念事業	32,000,000		32,000,000
② 管理費	(0)	(15,160,000)	(15,160,000)
役員報酬		3,020,000	3,020,000
給料手当		1,980,000	1,980,000
業務委託費		600,000	600,000
福利厚生費		1,800,000	1,800,000
会議費		690,000	690,000
旅費交通費		1,900,000	1,900,000
諸謝金		360,000	360,000
調査費		50,000	50,000
図書費		10,000	10,000
賃借料		1,750,000	1,750,000
消耗什器備品費		550,000	550,000
消耗品費		380,000	380,000
印刷製本費		230,000	230,000
通信運搬費		580,000	580,000
減価償却費		430,000	430,000
支払会費		20,000	20,000
租税公課		410,000	410,000
雑費		400,000	400,000
経常費用計	214,840,000	15,160,000	230,000,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 21,778,500	11,580,000	△ 10,198,500
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 21,778,500	11,580,000	△ 10,198,500
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	8,754,500	△ 8,754,500	0
当期一般正味財産増減額	△ 13,024,000	2,825,500	△ 10,198,500
一般正味財産期首残高	7,008,367	100,795,286	107,803,653
一般正味財産期末残高	△ 6,015,633	103,620,786	97,605,153
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	1,960,000	7,840,000	9,800,000
一般正味財産への振替額	△ 1,960,000	△ 7,840,000	△ 9,800,000
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	195,057,442	770,741,558	965,799,000
指定正味財産期末残高	195,057,442	770,741,558	965,799,000
III 正味財産期末残高	189,041,809	874,362,344	1,063,404,153